



ロボット支援下

手術について



呼吸器外科科長

やました たかし
山下 貴司

近年の医療の進歩はめざましく、外科手術領域でも、昔は大きかった傷がどんどん縮小されてきました。現在の内視鏡^{ないしきょう}下手術^かでは、棒状の手術器具を小さな傷から治療対象の臓器へ到達させ、低侵襲^{ていしんしやう}でがんなどの病変の切除術を行うことができません。そんな折、手術支援ロボットの登場がさらなる革新を起こしました。

手術支援ロボットの源流はアメリカにあり、戦地の負傷者を遠く離れた場所から手術することを目的としていました。湾岸戦争の終結に伴い、戦場で活躍することはなかった技術ですが、別の理由で医療の現場に導入されることになりました。実は、手術支援ロボットの操作は資格を持つパイロット^{パイロット}（術者）と同じ手術室内で行いますので、遠隔操作ができる機能は重要ではありません。機械制御で自在に動くロボットアームが、

手術操作に驚くべき自由度と繊細さをもたらしたのが最大の利点と言えます。手術を行う狭い空間で多彩な動きができるため、内視鏡下手術の利点をそのままに欠点を克服することにつながり、医療の質を向上させているのです。

呼吸器外科医として実際にパイロットを務めた経験からは、術後の回復は早く、痛みの程度は軽減されている印象を持っています。当然のことですが、個々の患者さんの状態に応じて最良の選択を行うことが大切ですので、すべての手術をロボット支援下で行うわけではありません。選択肢にロボット支援下手術が華がる際には、主治医とよく相談してみるのが良いでしょう。当院においても、今年の秋頃にはスタートする予定で準備が進んでいます。

夏バテに負けたくないために

ビタミンB1足りていますか？

暑さで食欲が低下し、冷たいめん類やおにぎりのみで食事を簡単にすませてしまうことはありませんか？ このような食事を続けていると、肉や魚、野菜が十分に摂取できず、ビタミン類も不足してしまいます。

ビタミンB1は、ご飯などの糖質をエネルギーに変えるサポートをし、乳酸などの疲労物質の処理にも役立つてくれます。疲労回復には欠かせない栄養素で玄米や大豆・うなぎ・豚肉などに多く含まれます。また、んにくやねぎに含まれるアリシンという刺激的な香気成分を摂取することでビタミンB1吸収率もアップしますので一緒に摂り入れたい食材です。柑橘類やお酢などに含まれるクエン酸は、筋肉中の疲労物質である乳酸を分解し回復を早める働きがあります。そのため夏になるとさっぱりとしたマリネなどをいただくのは、理にかなっています。



栄養管理室 室長

みやた みほこ
宮田 美保子

水分補給は1日コップ5〜6杯を 目安に

暑い夏は、体内の水分が不足することにより頭痛やだるさが出る場合もあります。適正な量の水分を摂るように心掛けましょう。しかし、冷たい水を一度に飲むと胃に負担がかかります。食欲不振や消化不良になることがありますので注意が必要です。常温の水を少しずつ飲むようにしましょう。

夏を元気に乗り切るためにも、しっかりと食べ、きちんと水分を補給することが大切です。

